

さくら第484号

令和 2年4月

## さくら

発行所 さくらそろばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7:Tel.51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

## 『新型コロナウイルスと学校休校』

3月2日の月曜日から日本じゅうの小学校、中学校、高校が休校となり今もなお続いています。新型コロナウイルス感染を防ぐためといひ、数十人ほどの集まりさえ自粛要請され、マスク着用とうがいと手洗いを必ずするよう国や県などから指示されており、人混みを避けるようにも言われています。

福井珠算協会も感染防止のために珠算技能優秀者表彰式を中止し、記念の楯は各教室で渡しています。いつもなら福井商工会議所のホールで保護者の方々の参列をいただき開催するのですが今回はダメになりさみしいです。

3月14日と15日に珠算史研究学会の見学会を福井で開催するのも中止となり、埼玉、茨木、千葉、東京、群馬、京都、大阪、岡山、福岡県などから18名の参加を得て算額や古いそろばん、福井県教育博物館所蔵のそろばんと書籍類、旧森田銀行に展示されているそろばん記念葉などの見学がダメになりました。

3月22日の全珠連検定試験は4月26日に延期されるなど、皆さん方にご協力をお願いしています。ありがとうございます。

3月29日に姫路市で開催する全国珠算研究集会も中止です。4月の入学式は予定通り行えるようなので安心し喜んでいきます。

このたびの新型コロナウイルス感染のため卒業式は変則された中での挙行となり複雑な気持ちで対応された事でしょうが、きっと生涯忘れないことでしょう、その時の感想を次ページに載せてあります。

ところで、今回の新型コロナウイルス騒動で思い出す言葉があります。それは、随筆家であり科学者である寺田寅彦(1878~1935)が講演会などで話したという『天災は忘れた頃にやってくる』という警句です。

この中で天災(災害)は文明が発達すればするほど増加するとも説いています。もう100年ほど前の時代ですから今では比べようがないほど社会の環境はちがいます。

でも、「備えあれば患いなし」といわれるように、まさかという時のために、ふだんから備えを怠ってはいけないという教訓です。

天災(災害)とはめったに発生しないことをいいますが、近年、地球温暖化による異常気象で昨年(2019年)の10月12日の台風19号は記録的な集中豪雨での河川の氾濫、堤防決壊による家屋の喪失などをテレビで見たり新聞で目にするといままさらながら、自然の怖さを感じます。

阪神・淡路大震災は1995年(平成7年)1月17日5時46分に発生し、マグニチュード7.3で、死亡者は6434人でした。

東日本大震災は2011年(平成23年)3月11日金曜日の14時46分18秒に宮城県沖で発生し福島第一原子力発電所事故による災害であり、マグニチュード9.0と我が国最大級の地震となりました。2019年12月10日現在で死者・行方不明者は18428人となりました。

この時の津波による被害の映像を見ると寒気が走り体が凍り付きます。

さかのぼること1948年6月28日午後4時13分に丸岡町を震源とする福井大地震はマグニチュード7.1で死者は3769人、負傷者は2万2000人以上。3万6000戸が全壊。

これらの災害を見聞きするにつれ、ふだんの当たり前の生活のありがたさをひしひしと感じます。学校に通い、友達とあそび、家族と楽に過ごせることへの感謝の気持ちがあるのみです。今まで何も思わず、何事も当たり前としていたことがこれほど大事だったと何事にも感謝しながら日々を過ごさねばと思います。我慢と互いの協力での難局を超えましょう。